

RICHARD LEIMAN, EX-JEW, USA

:

明:

イスラ ムを 践し、最 的にムスリムになることによって、いかにこの米国人コンピュ タ プログラマ
が平 を 出したかについて。

目: [事新改宗者ムスリムの逸 男性](#)

より: Richard Leiman

日 01 Dec 2014

集日 01 Dec 2014

私は子供の から、ラジオの短波放送を良く いていました。私はBBCワ ルドの中 のニュ ス
を良く いていましたし、世界各地の音 を くことも大好きで、おそらくクルア ンの朗 も
耳にはしていたはずですが、当 はそれが何だかは分かりませんでした。

成 の 程においても、私はBBCワ ルドを き けていました。当 は「Worlds of
Faith (世界の信仰)」という番 があり、英国における 宗教の代表者によって、各曜日
に 回5 8分の 演がされていました。私はすべての 演者の中でもムスリムによるものが一
番好きでした。

ムスリムの 演者が すときはいつも、イスラ ムについてもっと知りたくなりました。私
によるイスラ ム 践者たちの印象は、米国のメディアによって描かれているような意地
の い人々ではなく、幸福で嬉々とした人々でした。私はアッラ をこよなくを する人々
が、メディアで描かれているような人々なんかであるはずなどないと拒否しました。
なぜなら私はユダヤ教のバックグラウンドから持つので、私とイスラ ムとをつなげた
のは、アッラ には同位者がいないという信仰だからです。

英国での仕事

私は本物のムスリムとの面会に、人生における重要なことがありましたが、まだその人物がムスリムであるとは聞いていませんでした。私はニューヨーク州でコンピュータプログラマーとして働いており、当時は英国の欲求に振り立てられていました。

ロンドンを訪れた私は、そののようになりました。途中で、私は何の用意もなしに雇用仲介者へ行きました。仲介者の一人が何かのビジネスをくれました。米国にいた私は、紹介に連れていかれたいくつかの会社やその他の仲介者に、どんどん履歴を送り始めました。その内の一社から面接を希望されたので、私はまた英国に帰りました。そこでさらに多くの会社や仲介者を訪れた末、ビザだったにもかかわらず用されることがありました。

私を雇った会社は私の就労許可を申請したため、私は省から手続きのために一旦出国しなければならないと告げられました。私は再度米国に帰りました。その仲介者が非正規雇用許可を取得してくれ、当分の間カリフォルニア州エガムにあったロゴテックという会社で就労することになりました。

本物のムスリムとの初面会

ロゴテックで働き始めてしばらく経つと、自分の上司であるアニスカリムがムスリムだということを知りました。私は彼にクルアンの写本が手に入るか聞いてみました。聞いたことに、彼は数日以内に私のためにそれを持ってきてくれました。彼は私がクルアンを読む前に入浴すること¹

、そしてそれに反して冒言をするような人物には反してそれを許さないことを約束させました。

翌日、私は朝の入浴を済ませ、朝食を作りました。それから朝食を食べながら読み始めました。その時、私はアッラが天使ガブリエルを通し、言者が読み書きを出来ないにもかかわらず、彼に「め」と命令したことを知りました。

世界で最も神聖な物の、その小さな部分をただで私が感じたことを文字にすることは不可能です。わずか10ページをただで、私はこの宗教が私に合ったものであると感じました。それは1990年のことでした。それ以来、私は知欲に駆られ、自分が読んでいるものをするようになりました。

当、私は礼の方法やイスラムの については一切知りませんでした。もしアニスが私をロンドンのモスクに招待したなら、私は彼と一に行ったことでしょう。アッラへの礼について唯一知っていることは、跪礼の姿 だけでした。そのときは、ムスリムたちが一日に何度か祈りを捧げていることも知っていたので、私も就寝前と起床にそうすることにしました。

再び米国へ

就 可の期限が切れ、米国に らなければならなくなり、私は数年に渡って失 状 が いていました。私はアラバマ州ハンツビルに住む父を ね、彼のためにデ タベ ス アプリケ ショ ンを作成しました。ハンツビルはハイテクな多文化都市であることが分かったので、そこでプログラマ の仕事を探してみることにしました。父は、もし私が就 出来なければ、ニュ ヨ クからニュ ジャ ジ に引っ越した母 の元に引っ越さなければならないと言いました。ニュ ジャ ジ に引っ越す予定日だった2 前になり、私はハンツビルのある会社でプログラマ としての仕事をつけることが出来ました。

マスジドへの初

私は妹とインドネシアへの旅行を 画していました。インドネシアには、私たちのネット上の文通友 がいたからです。妹はおみやげとしてイスラ ム的なジュエリ の 入を私に nderきました。その当、私はハンツビルにムスリムがいるとは思いませんでした。

それからアッラ は私のために物事を めてくれました。私は「Crescent Imports (三日月 入品)」という店があるのを思い出し、そこにムスリムがいるかも知れないと思ったのです。しかし いました。そこはネ ショ ン オブ イスラ ムという 体によって されていたのです。ここからが、アッラ にしか 画することの出来ない奇妙な部分です。私たちが店主と し、イスラ ム的なジュエリ を探している旨を えると、彼はハンツビル イスラミックセンタ を 介してくれたのです。

私は彼らがモスクを介してくれたことをアッラに感 じます。私たちはそこへ行きましたが、外には が一台しか停められていませんでした。 の中にいた人物とすと、彼は私がジュエリについてイマ ムに ねてみることを めました。私はその建物に入るのに恐怖を感じました。そこは私にとっては神 な 所だったからです。

そのとき、 でヒジャ ブを着けている女性のことを思い出しました。私は彼女にイスラ ムに改宗するにはどうすれば良いのか ね、彼女は「ハンツビルのモスクに行ってみてはどう? 」と言っていたのです。 日、私は勇 を振り ってその神 な 所に ることにしました。

イマ ムとすと、彼は私がムスリム同胞たちと一 に礼 をしてみないかと ってくれました。これが、私の人生における 点でした。私はそれを大好きになり、まず に一度モスクに通うようになり、やがて に何度も行くようになりました。モスクに通う 度は私の と共に え、在では にいる であるアスルとマグリブ以外のほとんどの礼 をモスクで行っています。

正式なイスラ ム改宗

1996年の11月、私は正式にシャハ ダ（改宗に必要とされる信仰宣言）を行いました。ズフルとアスルの礼 は で一人で行うか、 付近の小さなモスクで同胞たちと行っています。私は他人からそれは何かと されるのを期待しつつ、 の廊下などで堂々と礼 用 毯を持ち いています。人に かれると、私は自分がムスリムで、この敷物は礼 するたものものだと答えます。また私の は、コンピュ タも含めイスラ ム的な りで装 しています。コンピュ タの壁 は通常はマッカのカアバ 殿か、自分の通うモスクの写真です。

ムスリムになった私にとって、不信仰へ るという 肢はもうありません。

脚注:

1 校正者注: それは特に推 されていることではありませんが、ムスリムたちは一般的にそう思っています。

この 事のウェブアドレス:

<https://www.islamreligion.com/jp/articles/615>

著作 2006-2015 断 を禁じます。 2006 - 2023 IslamReligion.com. 断 を禁じます。